

群 教 ゼ	G09 - 03
	平14.207集

文脈を意識しながら読む態度を 育成する英語科指導の工夫

背景知識を利用した書き加え活動を通して

特別研修員 丹羽 信明（群馬県立館林高等学校）

《研究の概要》

本研究は、英語の文章の内容に関する背景知識を調べ、文脈に則して書き加えることにより、文脈を意識して読む態度の育成を目指したものである。まず、グループで読んで概要を把握し、疑問点やもっと詳しく知りたい点を、生徒自らが調べる。そして、背景知識を基に、自分の考えを含めた英文にして、前後関係などに配慮しながら書き加える。こうした活動に取り組むことで、文脈を意識しながら読む態度を育成する指導の工夫を行った。
【キーワード：英語 - 高 背景知識 調べ学習 文脈 書き加え活動】

主題設定の理由

学校における英語教育では、教師が文法知識を説明し、それを駆使して訳読するという学習が中心であるが、最近では、語彙や文法の知識だけでなく、読み手が既に持っている知識や経験を活用して、内容を推測しながら英語の文章を読んでいくという学習も効果的であると認識されつつある。

さて、本研究対象生徒の実態を調べてみると、学習に対して向上心がある生徒が多く、「もっと英語の能力を高めたい。」と英語学習に意欲を持っている。また、中学時代の学習内容は、比較的よく身に付いており、授業や与えられた課題等への取組も積極的である。しかし、「読む」という点では、「英語で書かれた事柄を日本語に置き換える」といった逐語訳で満足してしまう生徒も少なからずいるのが実情である。このような生徒は、教科書等の本文の内容が高度になるにつれ、読んでもよく理解できないことになる。

しかし、これまでの授業は文法項目や重要表現の説明を中心とした訳読方式で、生徒にとっては受動的な学習活動になっていたと感じる。また、生徒が本文を理解できなければできないほど説明を多く行う傾向があり、読む作業が途切れがちになり、本文全体を内容のある一つのまとまりとしてとらえることができなくなっていたと感じる。重要なのは一つ一つの英単語を日本語に置き換えることではなくて、英語の文章の全体的な内容を理解することであると考えられる。

そこで、本研究では、生徒自らが調べた背景知識を利用して、個々の文ではなく、段落や本文全体のつながりを考えながら読み、新しい情報を文脈に則して本文に書き加える活動を取り入れようと考えた。この活動により、一文一文の逐語訳よりも、前後関係を意識した、文章全体の理解を図るための読みができるようになったからである。

具体的には、まず、グループで本文を読んで、概要を把握する。次に、興味・関心を持ったり、疑問に感じたりする項目の背景知識を、インターネットや書籍等で生徒自らが調べる。教師の調べた事柄の説明を聞くという受動的な学習よりも、本文を主体的に読むことになると考えるからである。そして、調べた背景知識を利用して、本文には書かれていない新しい情報や自分たちの考えを含めた英文を、文と文との前後関係に配慮しながら、本文に書き加える。こ

うした一連の活動を行うことにより、楽しみながら、文章全体の理解が図れると考える。

このように、背景知識を利用した書き加え活動を取り入れることで、文脈を意識しながら読む態度を育成できると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

英語の文章を読む学習において、本文の内容の背景知識を利用した書き加え活動に取り組むことで、文脈を意識しながら読む態度を育成できることを明らかにする。

研究の見通し

- 1 調べる過程において、インターネットや書籍等を通して背景知識を学ぶことで、それまで深く考えずに読んでいた箇所にも意味があることに気づき、本文の内容について考察するようになるだろう。
- 2 書く過程において、調べた背景知識を利用し、文章を意味のあるまとまりとしてとらえながら英文を書き加えることで、文と文のつながりを理解できるようになり、文脈を意識しながら読む態度を育成できるだろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 「文脈を意識しながら読む態度」について

「文脈」とは、「前後の文・文章における語の論理的な対応関係」、「問題となる語を含んで一貫した筋が期待される、文・文章の展開の仕方」(新明解国語辞典)とある。具体的に、「文脈を意識しながら読む」とは、物語や小説などの場合は、登場人物の場面での心情やその場面の状況になった原因・理由を推測しながら読むことであると考え。評論の場合は、筆者の主張を念頭に置きながら、論点や論理の展開を意識して読むことであると考え。また、事件や出来事などの場合は、話の展開を追いながら、因果関係を整理して読むことであると考え。

本研究における「文脈を意識して読む態度」とは、論理の展開を意識しながら、記述されていない事柄を類推し、主体的に楽しく、英語の文章の内容を読み取ることができるようになることと考える。

(2) 背景知識を利用した書き加え活動について

「背景知識」とは、「文や文章を理解するために有効な、歴史・文化・地理・社会情勢等に関する情報」である。これらは教科書等には記述されておらず、人生経験や学習活動、読書等を通して得る情報であり、生徒は、この新たなる情報の発見を目的とした調べ学習を楽しく行うものとする。こうした調べ学習により、英語の文章の内容について理解が深まり、また、一文一文の逐語訳でなく、全体的な意味を把握するための読みにつながるものとする。なお、調べる過程と書く過程での調べ学習と書き加え活動の内容及び方法は、以下の通りである。

まず、調べる過程では、生徒は、グループで本文の概要を読み取り、何を調べたいのかを考え、グループで調べたい項目の背景となる知識を調べる。そして、調べた興味深い背景知識をまとめて、クラスに報告する。

次に、書く過程では、次のような点に留意して、グループで考えた英文を書き加える。

代名詞が何を表すのか正しく把握する。

主語や目的語を前後の文とのつながりを踏まえて決める。

前後の文との内容に整合性をもたせる。

文章全体としての一貫性をもたせる。

なお、各グループで、書き加えた英文は、相互に参考にする。他のグループの、自分たちとは違ったものの見方や考え方に触れることにより、一層文脈を意識して読む態度が育成されると考えるからである。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

期 間	平成 14 年 11 月 6 日～11 月 20 日	教 科	外国語（英語）
対 象	群馬県立館林高等学校 2 年 6 組 男子 42 名		

(2) 抽出生徒について

A 男	知らない単語が出てくると英文を理解する意欲が低くなるので、読むことに対して積極的になるように支援したい。
B 男	一つ一つの文は訳せるので、他の文や文章全体との関わりを理解できるように支援したい。

(3) 検証計画

検証項目	検 証 の 観 点	検 証 方 法
見通し 1	調べる過程において、インターネットや書籍等を通して、歴史・文化・地理・社会情勢等の背景知識を学ぶことで、それまで深く考えずに読んでいた箇所にも考えるべきことや興味深い事柄があることに気づき、本文の内容について考察するようになったか。	・教師の観察 ・自己評価シート (Evaluation Sheet)
見通し 2	書く過程において、調べた背景知識を利用し、文章を意味のあるまとまりとしてとらえながら、新しい情報や自分たちの考えを書き加えることで、文と文のつながりを理解できるようになり、文脈を意識しながら読む態度を育成できたか。	・教師の観察 ・自己評価シート (Evaluation Sheet) ・ワークシート

研究の展開

1 単元名 「Lesson 6 Lapulapu and Magellan」 Dream-Maker English Series New Edition
(三省堂)

2 目標と評価規準

(1) 目標

マゼランの世界一周の航海の目的や意義を調べ、自分たちの考えを書き加えることにより、異なる立場から歴史を考察できるようになるとともに、文脈を意識して読もうとするようになる。

(2) 評価規準

本文の読み取り学習に主体的に取り組み、概要をつかもうとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

背景知識を得ることで、話の展開を追いながら、因果関係を整理して読むことができる。

【理解の能力】

新しい情報や自分たちの考えを、文脈に則して書き加えることができる。【表現の能力】

大航海時代について、インターネットや書籍等で調べ、発表することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

3 指導計画 (全8時間計画)

過程	時間	学習活動	支援及び指導上の留意点	評価項目
調べ過程	1	・新出単語と重要表現を確認する。 ・大航海時代について学ぶ。 【見通し】	・本単元での授業の進め方について説明し、今後の学習の見通しが立てられるようにする。 ・大航海時代の知識を得ることで、本文の内容について、興味が持てるようにする。	・教師の説明を熱心に聞いている。 【関心・意欲・態度】
	2	・グループで本文の概要を読み取る。 ・調べたい項目を出し合う。 【見通し1】	・グループ分けに配慮し、協力して活動できるようにする。 ・机間支援しながら、必要に応じて助言し、概要を読み取れるようにする。	・グループで協力して概要を読み取り、疑問点やより詳しく調べたいことを見つけられている。 【関心・意欲・態度】
	3・4	・背景知識を調べ、まとめる。 【見通し1】	・必要に応じて調べ方について助言し、生徒自らが調べるべき情報を得られるようにする。	・調べ学習に主体的に楽しく取り組んでいる。 【知識・理解】 ・背景知識を得ることで、本文の内容について考察するようになっている。 【理解】
	5	・背景知識を利用した書き加え活動に取り組む。 【見通し2】	・調べられなかった情報や新たに疑問に思った点について、助言したり、教師も一緒になって考えることで、内容について考察を深められるようにする。 ・書き加えたい内容を、既習の語句や表現を用いて、英文にできるように、必要に応じて助言する。	・グループで相談して書き加えようとすることで、異なる立場からの考察もあることが認識できる。【理解】 ・新しい情報や自分たちの考えを文脈に則して書き加えられている。【表現】
書く過程	6	・背景知識を利用した書き加え活動に取り組む。 【見通し2】	・調べられなかった情報や新たに疑問に思った点について、助言したり、教師も一緒になって考えることで、内容について考察を深められるようにする。 ・書き加えたい内容を、既習の語句や表現を用いて、英文にできるように、必要に応じて助言する。	・グループで相談して書き加えようとすることや、他のグループの作例を読むことで、異なる立場からの考察もあることが認識できる。【理解】 ・新しい情報や自分たちの考えを文脈に則して書き加えられている。【表現】
	7	・背景知識を利用した書き加え活動に取り組む。 【見通し2】	・調べられなかった情報や新たに疑問に思った点について、助言したり、教師も一緒になって考えることで、内容について考察を深められるようにする。 ・書き加えたい内容を、既習の語句や表現を用いて、英文にできるように、必要に応じて助言する。	・グループで相談して書き加えようとすることや、他のグループの作例を読むことで、異なる立場からの考察もあることが認識できる。【理解】 ・新しい情報や自分たちの考えを文脈に則して書き加えられている。【表現】
	8	・本文の内容についての考察を書く。 【見通し2】	・教師が、生徒の作例を紹介しながら賞賛することで、今後の学習に対してさらに意欲が高まるようにする。	・本文の内容について理解が深まっている。 【理解】

研究の結果と考察

1 調べる過程において、インターネットや書籍等を通して、歴史・文化・地理・社会情勢等の背景知識を学ぶことで、それまで深く考えずに読んでいた箇所にも考えるべきことや興味深い事柄があることに気づき、本文の内容について考察するようになったか

調べる過程では、大航海時代やマゼランの航海について、教師が、質問を交えながら話した

後、7人のグループに分けた。各グループは本文の概要を読み取り、疑問点や、より詳しく調べたいと思ったことを調べる活動を行った。

A男は、その日の学級日誌に「話を聞いていて"大航海時代"のゲームを思い出して、マゼラン海峡を通ったのを思い出した。地形を思い出してとても面白かった。」と書いているように、教師の話から本文の内容について興味を持ったようである。調べ学習の時間には、インターネットで『マゼラン船団のうちの1隻が、香辛料を積み過ぎて沈んだ。...』という内容の記述を見つけ、新しい事実の発見に興味が高まっている様子であった。しかし、『マゼラン船団の船の値段と香辛料貿易の利益』については調べがつかず、残念そうであった。そこで、「誰が乗ろうと当時の船の値段は変わらないのだから、マゼランにこだわらずに調べてみれば。」と助言したところ、1603年のイギリスの事例を見つけ出し、「船の値段が1600ポンドなのに、もうけが50万ポンドもあるなんて。」と得意そうな顔をして述べた。A男は、「いくつかの気になることについて調べると、本文の読み取りでは気がつかずにおもしろいことが分かって驚いた。」と言っていた。授業後の自己評価シートの感想欄では、資料1のように、この航海を試みたマゼランの心情の推測を書いていた。

資料1 A男の感想

今は香辛料は安く手に入る物ばかりだが昔はとても貴重なものだったと
いうことを初めて知った。しかもその額がものすごく多かったからびっくり
した。マゼランはこの航海を自分でやりとげたかったんだろうなと思った。

B男は、英語が得意であり、グループで本文を読む際には、中心となって活動し、調べる項目を数多く述べた。調べ学習の時間に、「Of the sixty men with Magellan, eleven stayed on the ships. The other forty-nine started crossing the shallow waters.」(訳：マゼラン以下60名いた部下のうち11名だけ船に残った。49名は浅瀬を横切りはじめた。)という記述に関する疑問点である『敵が1500人もいるのに、どうして60人全員で戦いに行かず、11人が船に残ったのか。』をインターネットで調べていた。しばらくして、『小舟に大砲を積んで60人が乗り込み、接近を試みたが岸までは行けなかった。そのため、49人が徒歩で海を渡ろうとした。...』という内容の記述を見つけ出した。そして、「小舟が流されないように11人が残ったのかな。」「いや、潮が満ちてきたら、岸に近づき、大砲を撃つためだ。」等、グループで話し合っていた。また、自己評価シートの感想欄

資料2 B男の感想

社会の授業でやったばかりなのに、こんなに面白かった。マゼランの
ことを調べていくうちに疑問点も多く出てきて、本気で調べたことが
多い。細かい理由が知りたいなと思うようになった。私もたくさん知りました。

では、資料2のように、主体的に楽しく取り組めたことを書いていた。

他のグループも、『深夜に沖合にやってきた船が見えるのか。』について、「この頃の人たちはとても目が良かったんだ。」「きっと船の灯りがついていて、それで分かったんだ。」等、お互いの考えを出し合った後、誰の説が正しいのかを確認するため、インターネットや書籍で熱心に調べていた。また、『なぜフマボンとその妻や家来をキリスト教に改宗させたか。』について調べていたグループは、スペインやポルトガルがイベリア半島からイスラム勢力を一掃したばかりであることを知り、「種子島にやってきたのもポルトガルの宣教師だった。植民地化とキリスト教化は表裏一体だったのか。日本も危ないところだったのか。」と語り合いながら、真剣に取り組んでいた。また、授業後の自己評価シートの感想欄では、資料3のように、マゼランの困難な航海についての理解を深め、フィリピン側の立場からも考えられるようになったことを示す感想が多く見られた。

以上のことから、調べる過程において、インターネットや書籍等を通して、歴史・文化・社会情勢等の背景知識を学ぶことで、それまで深く考えずに読んでいた箇所にも考えるべきことや興味深い事柄があることに気づき、本文の内容について考察するようになったと考える。

資料3 他の生徒の感想

・マゼランの航海は大変なことをなしたと思った。どんなに海が深いかはわからなく、どんなものがあるかわからない。未知の海に勇敢に立ち向かったマゼランはすごいと思った。

・今までマゼランはすごい人と思えていたが内容を読んでみると、マゼランは侵略者というイメージになった。

・歴史の見方が変わり、悔がする。昔々の歴史の事から白人中心史観だと気づき、客観的に一度見直しをせよ。この話のおもしろい印象が180°変わりました。歴史がいくつもあるのではなかなかに思います。

2 書く過程において、調べた背景知識を利用し、文章を意味のあるまとまりとしてとらえながら、新しい情報や自分たちの考えを書き加えることで、文と文のつながりを理解できるようになり、文脈を意識しながら読む態度を育成できたか

書く過程では、調べた背景知識を、各グループで相談しながら、自分たちの考えも含めて英文を作り、本文に書き加える活動を行った。その際、前後の文とのつながりをよく考えるよう助言した。

A男たちのグループは、"... , it did not take long for Magellan to succeed in converting Humabon and his wife to Christianity." (訳：...、マゼランはたちまち首尾よくフマボンとその妻をキリスト教に改宗してしまった。)に続けて、"主語 + made use of Christianity to colonize + 目的語." (訳：植民地化するのにキリスト教を利用した。)という文を書き加えようとして、主語と目的語をどうしようかを話し合っていた。A男は、英文を作ることにはなかなか意見を出せずにいたが、「不定詞の意味上の主語は"Magellan"だから、主語はマゼランにして、改宗したのは"Humabon and his wife"で、フィリピン人なのだから、目的語はフィリピンにしよう。」と述べた。さらに、しばらく話し合い、結局、主語は"He"、目的語は"the Philippines"になった。また、他の箇所では、資料4のように、マゼランに同情する立場の文(訳：満ち潮を待つべきだったのに。)を書き加えていた。さらに、A男は、「このあと、残された乗組員は、いろいろなことに出くわし

たが、セブ島で一隻の船を焼き捨て、なんとかフィリピン諸島を出

資料4 A男のグループの書き加え文

As it was low tide, the ships were some distance from the shore.
They should have waited for high tide.
 This forced the Spaniards to walk through sharp reefs and then a wide stretch of seashore plants before reaching Lapulapu's army.

発したのである。」という文を"Many of his crew lost their lives on their way to the Philippines; others were killed at the Battle of Mactan. Those who survived became pirates." (訳：フィリピン諸島へたどり着くまでには、乗組員の多くが途中で命を落としており、いままたマクタン島の戦闘でもかなり死んだ。生き残った者たちは海賊に落ちぶれた。)と"When only one ship, the Victoria, returned to Spain, in September of 1522, there were just eighteen survivors." (訳：1522年の9月スペインに帰り着いたのはヴィクトリア号ただ1隻、乗組員はわずかに18名になっていた。)の間

に書き加えようとして、一人で英文にしようと努力していた。また、授業後の自己評価シートの感想欄では、「そこまでの経緯をインターネットや文献を参考にしながら考えることは初めての経験でおもしろかった。でも、書きたいことが英語でうまく書けなかった。」と書いていた。

B男たちのグループでは、「調べた資料には、マゼランの船団はフィリピンに着くまでに3隻になっているけれど、セブ島でもう1隻焼き捨てたはずだから、戦いの時の船の数は、2隻の間違いではないのですか。」と教師に質問をした。そこで、生徒たちが調べられなかったマゼラン死後の一行と住民達の事件について話すと、「ああ、しばらく島に残っていて、戦いの後に焼き捨てたのですね。」と答え、出来事の順序が理解できたようであった。そして、"After the Battle, They stayed there for several days and threw one ship away." (訳：この戦いの後も、一行は何日かそこに留まり、船を一隻廃棄した。)という英文を作った。また、A男のグループと同じ箇所には、資料5のように、A男たちとは異なった客観的な立場の文(訳：なぜ満潮を待たなかつ

たかは謎である。)を、"he"を主語にして書き加えていた。さらに、B

資料5 B男のグループの書き加え文

As it was low tide, the ships were some distance from the shore.
It's a mystery why he didn't wait for high tide.
This forced the Spaniards to walk through sharp reefs and then a wide stretch of seashore plants before reaching Lapulapu's army.

男は、「277人で5隻の船で出発したのに、60人で3隻の船を操れたのか。」と深く前後のつながりを考えるようになった。そこで、戦いに参加したのが60人なのであって、その時点で、まだマゼラン一行は100人以上いたことを資料を見せながら説明すると、"At midnight on April 26, Magellan and his three ships left Cebu Harbor for the short trip to Mactan." (訳：4月26日の真夜中、マゼランは自らの3隻の船を目と鼻の先のマクタン島へ向かわせた。)に続けて"More than 100 men were still alive and then only 60 of them got on board the ships." (訳：まだ100人以上生き残っていたが、そのうちの60人が船に乗っていた。)という文を書き加えた。そして、本文の最後には、"Magellan is one of the greatest explorers in world history. But he is just an invader to Filipinos." (訳：マゼランは史上最も偉大な探検家の一人であるが、フィリピン人にとっては侵略者にすぎない。)と、まとめとなる文を書き加えた。また、授業後の自己評価シートの感想欄では、「自分たちで足りないと思う文を考えたり、その日本語文を英訳するのが思いのほか難しく、文

と文のつながりや、接続詞をどうしたらよいのかなど、分からないことも多かった。しかし、こういう作業はとても楽しく、自主的に作業で

資料6 他のグループの書き加え文

Magellan stayed in Portugal. He was a voyager. He wanted to go sea. But he was poor. He asked assistance king of Portugal. But he was refused. Therefore, He went to the Spain, when he asked assistance for king of there. (It was into this area that Magellan and his three ships sailed in early April, 1521.)
The second challenge succeeded. After Magellan make a plan. He wanted to find spices (cinnamon and pepper) on west line. But he drifted the Pacific Ocean. Arriving at Cebu Harbor, he ordered his ships to drop anchor and fire their cannons to demonstrate their force.
And he arrived on island where he didn't know.
The island is Mactan.

注：書き加えたかった内容の要旨...マゼランはポルトガルの船乗りだった。彼は航海に出たかったが、貧しかった。ポルトガル国王に援助を頼んだが、拒否された。そこで、スペインに移り、スペイン国王に援助を頼んだ。この試みはうまくいった。その後で彼は計画を立てた。西回り航路で香辛料を手に入れたかったのだ。しかし、彼は太平洋を漂流する羽目になり、知らない島にたどり着いた。それがマクタン島であった。

きたと思います。たまにはこういう授業があってもいいなと思いました。」と書いていた。

他の生徒たちも熱心に取り組み、新しい情報や自分たちの考えを英文にしていた(資料6)。授業後の自己評価シートの感想欄では、「自分たちで新しい文を作り、自分たちで英語にして書き加えるのは意外におもしろかった。」「友人と協力することで、自分の視点とは違った視点から英文の意味を考えることができ勉強になった。」「いつもはこんなに深く英文を読んだりしないので、今回の授業は自分にとってよいものだった。」というような内容の記述が多く見られた。

以上のことから、書く過程において、調べた背景知識を利用し、文章を意味のあるまとまりとしてとらえながら、新しい情報や自分たちの考えを書き加えることで、文と文のつながりを理解できるようになり、文脈を意識しながら読む態度を育成できたと考える。

研究のまとめと今後の課題

主体的な調べ学習を取り入れて、本文の内容についての背景知識を得ることは、生徒の学習意欲を喚起し、英語の文章に対する抵抗感を減らし、逐語訳でなく全体的な内容理解に意識を向けさせるのに有効な手段であると考えます。

書き加え活動を取り入れることにより、心情や状況を考えたり、書き加える英文の内容と前後の文のつながりを考えようとする姿勢が見られ、文脈を意識しながら読む態度が育成されたと考える。

書き加えたいことがあっても、英語でうまく表現できないという感想も多く見られた。このような活動を取り入れていくには、単元で学ぶ重要表現を用いて、与えられた日本語を英語にするだけではない、実践的な英作文指導も日ごろから行う必要があると考える。